

令和5年度市政懇談会 記録

会場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日時	令和5年6月20日（火） 18：30～20：40
参加者数	77名

No.	項目	内容	市長の発言
1	新公益施設 Ao-na	横手市の学校の人は、Ao-naで勉強できると思うが、横手市外の人はなかなか、送り迎えとかバスで来るのは時間もないし、お金もあんまり余裕はないので、循環バスなどそういう案を考えているのか。	循環バスは公共交通が走っていないところ、走っていないルートを走っている。それを利用していただきたい。Ao-naは、22時までは開館している。電車やバス時間がくるまで、十分に目的を果たして過ごしていただきたい。これまでよりも待機しやすい。横手市民以外の皆さんも大いにこの施設を活用いただきたい。
2	道路補修のお礼	市長には市政のために一生懸命努力していただき、本当にありがたい。昨年この会議の中で、安養寺に向かうところの補修をお願いした。今年工事にかかるということでこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。	入札はこれからなので、工事にかかる際は、安全に進めたい。
3	除雪	大阪や東京にかまくらを持っていくとあちらの方たちは大変な喜んでいただいて、横手にとってプラスに働くんだという事はわかるが、そもそもこの雪の中ですれもれている私達にとっては、日々の暮らしの方が大変。横手市は、どういうところを一番頭に置いていくつもりか。高齢者の多い土地柄のため、非常に共助が働いて助け合っているところもあるが、なかなかそこまでできないというふうなところはどういった指導をしていくのか。そういうことを指標として作っていただきたい。	横手で暮らす限りつきまとう課題。道路除雪は、しっかり丁寧に対応していると思う。各屋々についても、住宅リフォーム等の補助があり、少しでも雪による危険、作業の軽減に繋がるような改良については応援するというの取り組みをしている。また、ある程度数件の方がタッグを組んで除雪機を購入する場合には、補助という形で応援している。個人の財産を応援するというのは難しい。町内や町内会というような形で実施する部分で応援している。共助組織によってうまく取り組んでいる事例もある。全く無策で過ごしているということではない。悲鳴ともとれるような声は、毎年、毎冬、聞いている。今後もしっかり取り組んでいく覚悟。また、地区交流センター化により、地域の課題を地域の人たちで相談しながら、地域ぐるみで何かアクションをおこすという動きを応援する。中でも、やはり共助組織を立ち上げ、地域の課題に絞るみで向かっていくという機運を応援したい。
4	郊外の活性化	スーパーが郊外にできて、市街地が空になるドーナツ化現象と言われているが、今横手駅中心の計画して、新しい計画がどんどんできていて、とても魅力的ではある。しかしながら、郡部が何かおいていかれるような気になってしまう。増田はおかげさまで内蔵の町といわれ、他の郡部の方よりも、羨ましがられてるかもしれないが、同じような環境の中にあるので、今後郡部をどのように活性化するのか、それに私達がどういうふうに加担していけるのか。	ドーナツ化現象は、地方都市全て言える現象。横手市も多分に漏れず、空洞化という時代がだいぶ続いた。横手の停滞の象徴のように存在していた駅前ビルを、何とか解消するため、今回の図書館建設にこぎつけた。この現象が、明日明日、すばっと変わるものではない。変えていくには時間がかかる。使われてない施設等を壊すことも、相当なエネルギーが必要。これをやれる限り前向きに取り組んでいかないといけない課題と受け止めている。また、各地域ごとに再生のキーとなるものが違う。増田は重伝建築が再生のキーと思っている。横手は横手でまた違った、十文字は十文字で違った方法だと思う。全て一律に中心市街地は点在してるが、同じ方法で再生できるかということ、それぞれ答えは違う。その地域に合った形のアクションが起こせないかということ、常に考えている。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日時	令和5年6月20日（火） 18：30～20：40
参加者数	77名

No.	項目	内容	市長の発言
5	中町七日町の街灯	<p>昨年、電柱地中化をし、全て地面に埋まってきて電信柱がない地区になった。とにかく今の時間とても暗い。特に7時から8時以降。街灯の明かりだけが頼り。一つの街灯から、次の街灯に行くまで真っ暗で、漆黒の闇。これを町内会で何とかできるかという問題でもない。どういう方が通るか分からない。防犯的にも怖い。今流行りの防犯カメラの一台もない。お客さんと呼ぶ地区でありますので、この辺もお考えいただきたい。町内会で何とかしていいよというのであれば、そういった資料を示していただきたい。</p>	<p>街路灯については、市の設置の規則があり、同じ間隔で設置されているもの。増田地区で同じ間隔で街路灯を設置すると、その間隔で、沼館も大森の大雄も山内も設置することになる。公平公正を考え、倍増するとそれと同じ密度で全域設置となり多額の費用がかかることになる。相当な覚悟と電気代も必要となる。かつては商店街が街灯を自らの資金で設置した時代もあった。商店の力だけでは街灯を運営できなくなり、外すというようなことが、横手の中心部でも起きているのが現実。街灯がやはり必要だという機運を高め、そういった商店街作りを、実現させないといけないと感じる。</p> <p>商店街路灯組合があった地域も、組合をやめてしまうようなところも出てきており、横手の今の力の無さの表れだと思う。歯がゆいが今のところは難しいと思う。増田地区においては何とかしようとして実際に動いている市民がいてくれる現実がある。私は、増田が地域の中心市街地の賑わいのリード役となって、波及効果に繋がるよう、手本となるような増田であってほしいという思いで集中投資をした。増田にお住いの皆様には、明るく歯を食いしばって振舞っていただけるとありがたい。</p>
6	子どもたちの環境	<p>時代が変わっても、子育て・教育は大事なこと。地域の里山古里は子育て道場であるというふうな位置づけで、親子の自然体験活動とかに取り組んでいる。</p> <p>天ヶ森を中心に、整備が進められるということだったが、観光面プラス、たくさんの子供たちが訪れるような場所にできるようにお願いしたい。横手にはたくさんの魅力的な里地里山がある。子どもたちが育てるような環境整備ということもあわせてお願いしたい。</p> <p>秋田県の『守りたい秋田里地里山50』を検討していただきたい。増田は狙半内がこの里地里山50に入っている。真人山周辺も認定地域となるよう申請を検討いただきたい。横手をぜひハード面とソフト面の教育を大切にすまちということで、お願いしたい。</p>	<p>残念ながら、子どもたちにとってデジタルの世界は魅力的で手放せないものとなっている。都会に行くと、プラスチックジャングルで、不自然に囲まれて、人工に囲まれている。土を眺めたり、川を眺めたり、森に入ったり、本来人類が過ごしてきたその対自然との戯れ、虫を触る、魚をつかむなど。せめてここに住んでる子たちは、親がそういう機会を意図的に作ってあげないといけないと最近強く感じている。</p> <p>おそらく都会の人たちは、余計にこういう秋田みたいな空間を、横手みたいな空間をより一層求めるのではないかと思う。横手の強みをもっと訴えていきたい。また、この地域のネガティブな愚痴を子どもたちに伝えていた現実がある。現実で多少苦勞しても、子どもたちの前では、ぐっと堪えて全てポジティブに捉えた感性をぶつける。これが子どもたちの量、数字に跳ね返ってくると思う。</p>
7	移住	<p>移住について、具体的に今横手市で都会にいる人たちに、提案や、行動を実際に起こしてるか。</p>	<p>移住については、例えば『よこてfun通信』という、県外の人向けの冊子を配布している。1万人ほど。横手出身者が多く、横手に繋がりがある、縁がある人たち向けに、横手の発信役になってもらおうという部分も含め、情報発信を行っている。また、移住とカウントされないが、企業誘致っていうのは、移住に繋がることであり、実際に立地した企業からに勤めようということで家族で横手に転入した方がたくさんいる。</p> <p>成人式でアンケートと称し、横手市のホームページにアクセスしていただき、彼らにこの地域の情報をダイレクトにアプローチしている。お金をかけず発信っていうのは逐一している。今後も県と連携しながらの移住促進や、首都圏に赴いての催事でも横手市を紹介を頻繁にして、どさ回りをし、外向けの発信もしっかり交渉はしてまいりたい。</p>

令和5年度市政懇談会 記録

会場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日時	令和5年6月20日（火） 18：30～20：40
参加者数	77名

No.	項目	内容	市長の発言
8	温泉施設	増田の温泉施設は今休んでいるが、ゆーらく・さわらび、それから横手市全体の温泉施設の見直しはどうか。	温泉については、四つの施設を市が関わる計画。 他の施設については、民間譲渡を再度提案し、名乗りを上げる業者や法人等が発生しない場合は、残念ながらそこで廃止というような決断をさせていただく。先般ゆーらくについては、ちょっとこぢんまりとした地域向けの温泉というものを提案したが、説明が行き届かず、議会否決となり、建築が叶わなかった。何とか地域の皆さんに伝えるものを作ろうというアプローチをしたが、一旦途絶えているところである。
9	地区交流センター	増田地域の人たちが頑張ってるっていうのは、地区交流センターが頑張ってる。そしてもう一つは増田地域局の職員方が頑張っているのではないかと思っている。職員が少なくなっている中で、地域が今まで通り、横手の各地域の中でもそれなりにポジションにいれるのかと考えると今のような地域局なりの状況を考え、非常に心配するところである。今後のその地域局、地区交流センターをどういうふうにも市長はやっていきたいと考えているか。	地区交流センターについては、取り巻く市民の顔ぶれや住民の発想、能力それぞれ地域性がある。その地域の特色ある活性化のさせ方はあると思う。その地域に合ったやり方で、多少自由度を設けて、その地域の皆さんの意思で動き、それを市が応援するような形を期待している。 合併から20年以上経過し、合併当初10万7000人が2万4000人ぐら人口が減少した。その数は今、十文字と平鹿全員がいなくなった数。短期間に、これだけの人が地域から減少した。だからこそ夢を描けるような土壌にあるんだということを発信し続け、やりよう・努力・工夫・向かい方によっては、可能性がゼロではないことを、多くの市民にわかっていただきたい。温泉施設について、非難を浴びながらの提案も、現実に対応するためのやむを得ない手段である。 スリムに、また身をそくような改革と並行して、夢描けるようなアプローチをセットで、やっていくという要因を続けたいといけない。その片方で削減して、両方やらなければならない現実がある。市民とタッグを組んで、全体で盛り上げる横手市役所でありたい。
10	補助金の申請	町内会活動に対する市の補助金制度がある、その申請が非常に面倒。町内会活動というのは、住んでる我々住民が仲良く、楽しく過ごしていくという観点で行うものである。申請の仕方をもっと少し緩やかな制度にして活用できるようにしていただきたい。	それは各地で同じ話が出ている。あまりにも簡単にすることもいらない部分がある。申請のしやすさは改良を加えながら、どうすれば提案が通りやすいのかは、最寄りの職員に相談していただきたい。補助金も皆様方からいただいた大事な税金。簡素化しすぎて、チェックが行き届かないという、報告とやってることが違うというのは、まずいことで限度がある。どの点が難しく、面倒なのか、今後も皆様方からご意見を頂戴しながら対応できる部分については、改善をする努力はしてまいりたい。どの点が一番煩わしさを感じるのか、再度情報収集に努めたい。
11	農業	横手市は県内でも有数の農業産出額を誇る県内1位。市長は今後もこの1位というものにプライドを持って力を注いでいくという考えは変わらないか。	農家の皆様の奮闘頑張りでもって、横手市の農業産出額は1位。その間とはとてつもない降雪等、災害に見舞われながらもみんな食いしばって頑張っていたいただいたおかげである。これを通過点にして何とかより一層というふうにもついでに、雪の影響で繰り返して一進一退。 バランスよく複合農業を特色としてやっていきたい。様々なバリエーションの産品を持っているというのは全国的にも珍しい。『ごっつお給食』という、生徒全員に横手産品で作った給食を提供できる自治体はないと思う。食にも恵まれた地域ということを子どもたちにもしっかり伝えていきたい。稼げる農業、スター性のある農家も創出しながら今後も取り組んでいきたい。 関西万博の際には、世界からお客様が大阪にくる。その一角に横手市を紹介するブースでも設ければという打算がある。その大阪の方々に横手の行きというコンテンツを知らしめるための投資、あくまでも前段の投資であることをここで紹介したい。またアリーナ等の管理費についても、今後の財政シミュレーション、長期展望の中でしっかり管理していける範囲内の建物である。綿密に組んだ上での今回の設計。何十年か後に入る大規模改修も含めて計画している。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日時	令和5年6月20日（火） 18：30～20：40
参加者数	77名

No.	項目	内容	市長の発言
12	増田高校	<p>統合問題に揺れ動いてると聞いている。地域の構成員として必要な資質を培い、地元定着において貢献する高校理念を持っている。地元で貢献できる、食べれる農業ができる農業科学科という特色ある学科を持つ高校はぜひあるべきだと思う。この高校は、増田というエリアにあるべき。越境して通われている、通わせたいという方もいる。</p> <p>（東成瀬、稲川、湯沢、羽後など）増田はリンゴの唄の発祥の地、並木路子先生が名誉町民になっているなど、増田というワードはもう既にブランドになっている。増田高校という名前を残して、この地域にあるように、県の高校教育課にお願いすることかもしれないが、市長の意気込みでぜひよろしくお願いしたい。</p>	<p>県の教育委員会がその判断をすることから、大変だなどというふうには思っている。私としても、この地域の産業を支えるその担い手を直接育てる高校の存在を絶対なくしてはならないという強い思いがある。</p> <p>農村地帯の風景は、あそこの卒業生が作ってるっていうこともあると思う。そういった部分を誇りに思いつつ、意見を言うだけの立場ではありますけれどもそういうことは伝えてはいる。</p>
13	市長	<p>市長に就任し、今までの自己採点と、普段市長として心がけておられることをお話いただきたい。市政についてももっと興味を持てる、「俺がやりたい」という、そういうような人材を育てるための施策なり、考えを教えてください。</p>	<p>10年の自己採点は、残念ながら私の描いてる目標通りには全く辿り着けていない現実はあるが、市民の皆様から選んでいただいたということもあり、赤点は免れたと思っている。落第ではないが、決して胸を張っていい点数取りましたという点数はつけられないと思っている。</p> <p>市政についてという部分について、若い人たちは身軽であり、自分の活躍のフィールドをこの地域でも夢を描いて、自分なりの満足を勝ち取る、また自分なりの夢を勝ち取る舞台が横手にあるんだと思わないと、簡単に出て行く可能性がある。夢も現実も、この地で獲得できるということを訴えていかないと、そういう人たちは育たないと思っている。</p> <p>一番困難な場所ほど、政治家としてやり合いがある場所はないと思っている。豊かで誰も困ってない場所で、政治をやることはつらいのでは。何がいいかわからない、課題もない地域や課題を見つけてない地域も、日本の中には存在している。そこで政治をやるよりは、「やっぱいんじゃないの」というくらいの場所がたまたま私のルーツの場所だった。これは私がかがむしゃらに頑張るべき舞台が横手にあると思っている。今後も全然点数的には足りてないのでアクセル全開で進むしかない。</p>

令和5年度市政懇談会 記録

会 場	大雄地区交流センター ふれあいホール
日 時	令和5年6月21日（水） 18：30～20：47
参加者数	47名

No.	項目	内容	市長の発言
1	大雄地域局職員	対応がとても爽やかで親切。市民として地域局の職員の事をとても誇らしく思う。	冒頭の職員に対するお褒めの言葉について、人は城・人は石垣。大変職員が励みになる言葉であり、代わって御礼を申し上げる。
2	廃校の利用	大雄中や雄物川南小学校が有効活用されている事に感謝申し上げます。母校が無くなるというのは非常に寂しいものがあるが、有効活用されていることはとても有難い。	(質問者の感想)
3	まちづくり	家族で住んでみたいというような、魅力あるまちづくりが大事。年金受給年齢引き上げの影響で、若者の職場が少なくなってきた。働く場ではなく、働きたい場を、ぜひ横手市に作ってほしい。羽後町では子ども・家族への手厚い補助がある。市長・議長・市議会が、うまく話し合いを深め、ぜひ少子化に取り組んでいただきたい。そしてそれを、力強くアピールしていただきたい。	市報等でささやかながら、地元企業を逐一紹介をしている。アピールは大事であり、今後も粘り強く、しっかり光を当てていきたい。また、若い方々は余暇の時間の充実を求めている。働いた後、空いた個人の時間というものが充実するよう、24時間充実できる取り組みを少しずつ意識して作ってほしい。働く場についても、やりがいやその企業の目指す意図に共感していくことも大事。企業から頼りにされる、頼もしいと戦力としてあてにされることは嬉しいこと。更にその会社で成長したいという若者のチャレンジに対して、企業とともに横手市も応援する取り組みもしている。都会から戻ってもらう・来てもらうということも大事だと思っている。若い女性はもちろん、子育て中や子育てが終わった全ての女性がもっと輝く取り組みも考えている。自分の母親やおばあちゃんを見て、この場所で過ごし続けた未来を想像すると思う。ハツラツと、生き生きと素敵にこの地域で生きていけば、将来の見本がいっぱいあれば、地域の魅力に引き寄せられ、また戻ってくる比率も高まるのではないかと意識してそういうできるところはチャレンジしたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	大雄地区交流センター ふれあいホール
日時	令和5年6月21日（水） 18：30～20：47
参加者数	47名

No.	項目	内容	市長の発言
4	ゆとりおん 大雄	なぜ、ゆとりおんは存続できないのか。 数値化して存続の判断をしたという考えのようだが、数値化 というのを公開していただきたい。譲渡・引き受け先がなけ れば存続できないので、別の方向で考えてもらいたい。若者 に注目しているようだが、老人もいる。存続を切に希望す る。	・横手市はFM計画のもと、温泉のみならず、全ての公共施設の総量を圧縮に以前から取り組んでいる。人口減で今 の横手市が抱えている施設を全て持ち続けるということは困難。 一番わかりやすい例は、学校統合。母校に思いを寄せる方々に納得しがたきをわかっていただき、実施した。市の実 施している政策に色をつけず、聖域を設けずFM計画は実施中である。 ・数値化については、温泉再編の取り組みのアンケート調査をした。また、自身も温泉の統廃合やむなしという公約 をした。そういった市民への約束、そして市民へのアンケート回答等を考えて、3施設は市が関わる形で残そうでは ないか。というような決断をした。温泉施設が誕生した当時は、今よりも4万人ほど多い人口であった。それが3分 の2まで減り、温泉施設の数はそのままであるのは立ち行かない。譲渡が叶わない場合は、ゆとりおん大雄について はそのサービスの終了を決断せざるを得ない。 市が抱えるすべての温泉施設を運営し続けるということは非常に困難。
5	ゆとりおん 大雄	ゆとりおんの利用者が激減している感覚がほとんどない。さ くら荘、ゆっふるよりも最近込み合ってきたなど見ている。 平地で通いやすい銭湯みたいな温泉交流施設として、温泉交 流コミュニティの場として、ぜひ再検討してもらいたい。	
6	ゆとりおん 大雄	民業を税金が圧迫するから温泉施設を減らすというお考えの ようだが、山内地域には共林荘という温泉がある。そこに、 業者に委託して戻された鶴ヶ池荘が再開するということは、 矛盾しているのではないか。 (再質問) バランスというが、ここが無くなれば高齢者は行くところが ない。タクシー代をかけて、温泉に行く人はいない。先日の 説明会において、入館数に触れず赤字だという報告を受け た。生かすことを考えないのか。源泉が湧いているうちは、 頑張ってもらいたい。	・地域の配置バランスっていうのも考慮の中に含んでいる。 山内地域という区割り、市の中でも一番人口は少ない。商業圏・生活圏は旧横手市と一体となっており、中学校も 統合し、小学校以外は生活テトリーである。 旧横手には好評の温泉施設というのは現に存在してない。山内地域という狭義で考えるのではなく、横手市全体を見 渡した上でのバランスっていうものも考慮している。 ・交流の機会を絶つということではなく、温泉以外でも交流できると思う。この施設に価値を見出し、民間の事業者 にかけたいという思いで譲渡を提案した。苦渋の決断である。全ての温泉施設を横手市が関わり続けるということは 非常に困難。決して建物そのものが忽然となくなるということではなく、別の方法で喜ばれる利活用方法がないか、 温泉以外の地域の皆様が集うアプローチも考えられないのか、温泉だけが交流の鍵になるっていうことではないと 思っている。
7	ゆとりおん 大雄	実際に利用者が減っていると言うが、本当か。 大森のさくら荘があるから、ゆとりおんを潰しますという事 か。 (再質問) 源泉が出ているうちは、存続することはできるか。	・コロナ禍中から比べますと増えてはいるが、コロナ禍以前の日常があった時代と比べると減っている。 市民に諮って、市民のご意見があって、大森だけではなく、3施設の配置バランスを考えての結果である。 ・そこを含めて厳しいという判断。施設に対するご愛顧に感謝しかない。温泉以外のアプローチで様々な世代が集え る空間、場所や、新たな支援というものを市民の皆様と考えていきたい。サービス終了とともに、忽然と建物がなく なるということではない、他の活用というものを模索することは、続けていく。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	大雄地区交流センター ふれあいホール
日時	令和5年6月21日（水） 18：30～20：47
参加者数	47名

No.	項目	内容	市長の発言
8	ゆとりおん大雄	<p>今年いっぱいやめるということではないか。そういったことは考えているか。</p> <p>（再質問） 鶴ヶ池荘のように、再開も考えているか。衰退している温泉を何とかして生かしていくことを考えてもらいたい。もう少し頑張ってもらいたい。</p> <p>（再質問） 市体育館にはだいたい予算を出しているが、その予算をゆとりおん大雄に回すことは考えなかったか。</p>	<p>・今年度は、全ての施設に対して今後その譲渡の準備等を検討していき、過去を振り返りながら、問題が発生しづらいような形を検討していく。</p> <p>・運営を引き受ける民間業者が現れば、運営に耐えうる母体かどうか審査をし、委ねる。しかし、もし譲渡が叶わない場合は、サービスを終了する方針。</p> <p>・運営に長けた人にアプローチをしていないわけではない。譲渡は相手のあることであり、相手次第であるが、一縷の望みをかけてもがいていることは事実。</p> <p>・新公益施設については、一般財源のほか、国の有利な予算の事業からの応援があって、あれだけの規模の展開をしている。既に建っている事業の物に有利な予算がつくことはない。県や国から予算が入ってきても、その予算には目的があるので、ゆとりおん大雄に回すことはできない状況である。</p>

令和5年度市政懇談会 記録

会場	条里南庁舎 講堂
日時	令和5年6月29日(木) 18:30~20:58
参加者数	59名

No.	項目	内容	市長の発言
1	市民会館建設に伴う交通障害	現状でも、ふるさと村や体育館でのイベント時、周辺の幹線道路が渋滞。生活道路から幹線道路へ出る事が困難。更に。幹線道路の渋滞を避けるため、住宅地の生活道路をスピードを出して通行するなどの交通障害も発生している。市民会館や体育館ができた場合、更に渋滞になり、混雑する恐れがある。交通量が解消されるのか。事業担当課からの説明会の早期開催をお願いする。	既に提出されている要望について、早期の回答をとということなので、整えて回答できる機会を作れるように思っている。
2	体育館建設に伴う公園内の園路対応	赤坂の交差点から野球場へ向かう道路は、公園内の園路。素通りできない状態であるが、駐車場の入口から車が入り出して走行しておかしい。都市計画の公園のため、法律を曲げてガードパイプを取って、車がどんどん入るのはいかがか。市長から担当課へ確認してほしい。	園路の解釈をどう捉えるかという事だと思う（かつての解釈から変更している事なのかというご質問と受けとめて回答）。市民会館・体育館は、大型の施設でもって当然、周辺の様々な人の流れが間違いなく変化するのだと思っている。全くの混雑が発生しないという事はないと思う。今のうちから考えておくべきこと。説明の準備をし、西地区会議の皆様には、報告したい。
3	税金	市民は何をやれば税金が安くなるのか説明してもらいたい。定年退職すると介護保険料が上がり、払えなくなる。市民の税金がいくらで、皆さんにごみの分別をこれだけすれば税金がこんなに安くなりますよ。という事を次回の説明の時にぜひ入れてください。現実味を持ってやってください。	税法上、その立場の公平公正という事で、納税者は前年度の所得状況によって税額は反映される。所得が無い年に、所得があった年の税金を負荷されることは、ダメージがあると思うが、仕組み的には、どなたもそういう状況である。ただ、そういった思いで市民は暮らしているという事を受け止めさせていただく。血税ということで、しっかり適正に有効な税の活用を改めて、緊張感を持ちながら、吟味して政策に反映させたい。
4	横手市PR	横手市で、かまくらをいつでも体験できますよと横手市のHPでどこにも書いていないと思う。大阪城でやるのも結構だが、一年中かまくら館で見られますと書けば、お客さんが来るのではないかと。そういうPRをしてほしい。片野重脩（しげなが）について全部まとめたものを作った。図書館と文化振興課に持って行った。私が求めているのは、パンフレットを作ってほしい。片野重脩というのは、すばらしい人物。道徳感とかそういう教育をとり入れるべき。	かまくらのPRについても、まだ発信力が足りないと思う。検索している人が辿りつけないというのは、いかがかと思うので、知りたい人にしっかり情報が届くようなしつらえは取り組むべきだと思っている。また、片野重脩さんにつきましても、旧片野家の住宅として、これから市で運営・利活用というものを考える段階となった。（片野重脩は）どなたに紹介しても申し分ない立派な方であり、素晴らしい人の生き方・考え方をしていた方である。今を生きる我々してみれば、片野さんのみならず、昔活躍された横手の先人たちの地域や世の中に対する思いを伝えるべき価値がある方がたくさんいる。特に、子どもたちには知ってもらいたい。また、知らない市民の皆様にもそういう思いを分かち合える、そういった発信が大事だと思う。保存・活用と並行で、PRの仕方についても検討してまいりたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	条里南庁舎 講堂
日時	令和5年6月29日(木) 18:30~20:58
参加者数	59名

No.	項目	内容	市長の発言
5	Y2ぶらざ立体駐車場料金	Y2ぶらざの「健康の駅トレーニングセンター」を利用している。2時間の運動を終え、立体駐車場に車を止めてある車に戻る時に、駐車場の無料時間が2時間を超過するため、100円の料金が発生する。納得がいかない。 駐車料無料で利用するには、料金が発生する(2時間)前に、トレーニングを終え、駐車場まで帰らないといけない。2時間健康のために利用してくださいと市が言っているのに、そうすると料金が発生する。私だけでなく、他の利用者も料金が発生してしまう事が、おかしいと言っている。改正という方向でお願いしたい。	我々としても、無料で利用してもらいたいとは思っているが、どうしても駐車場の運営コストもかかる。いろいろな利用形態を吟味したうえで議論し、料金徴収の落としどころとしては、2時間まで無料という結論となっている。また、子育て世帯への配慮で、3時間まで無料とさせていただいた。何とか現状のルールで運用させてもらいたい。
6	市政懇談会の会場	3年前は、境町や黒川で市政懇談会を開催していた。なくなったのはなぜか。	3年前は13会場で開催していたころは、残念ながら1~2人の参加という会場があった。多くの皆様に参加でき、集まりやすい場所や時間を検討し、10会場とした。
7	公共施設建設	耐用年数でやむを得ないが、箱物行政と言われてランニングコストが引がかかる。北海道夕張市のように倒産しないほしい。	建物のランニングコストについては、横手市全部の施設を管理する計画を立てている。大型公共施設の建設予定も、市全体が抱える建物の総量としては圧縮するという形で計画している。ついては、人口減少等は当然ある未来を想定しながらも、今ある施設が適正に管理できるような計画は整えている。建てるだけではなく、解体もしている。空地になっている資産を民間に活用いただいたり、民間譲渡したりして、市が抱える総量を圧縮してランニングコストを計算した上で運営している。夕張市のようになるのを避ける準備はしている。
8	士農工商	現在の横手市はどういう風に当てはめるか。	「士農工商」についても、法の下での平等であるので、職業に貴賤はないと捉えている。どんな職業も社会には必要として存在している。それに上も下もないと思っている。すべての職業が貴重。
9	職員の不祥事	職員の不祥事があり、懲戒分限審査会を開いたが、前例にならって停職処分としたとある。市職員の服務規程と項目がずいぶん甘い。	職員の不祥事については、職員に綱紀粛正を図っている。ひとえに私の指導力不足というか、至らなさが、緊張感の欠如に繋がったものだと思う。職員への処分の在り様については、様々なご意見・罰の重い軽いはあるが、全国的な同じ立場・同じ状況の不祥事に対して、どのような罰が与えられているかという部分を照らし合わせて、処分を下すしかない状況である。分限審査会の判断に従って粛々と処分をしている。ただし、社会的制裁という部分については、ニュースや新聞等で名前が載ったりするのは、一般の方よりも露出度が高い方だと思う。こうした処分を決断せずに済むよう、常時に厳しく職員へ呼びかけ、注意喚起を続けてまいりたい。
10	参院選前のチラシ配布	参議院議員選挙の際、候補者を案内し、職員へチラシを配布した市長の行動は、公職選挙法違反ではないか。	私の中では違法性はないと捉えている。公職選挙法を取り締まる方の目線からも違法性はないと捉えたのではないかと考えている。また、国の行政府の一人であり、行政機関に入っても当然問題はない。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	条里南庁舎 講堂
日時	令和5年6月29日(木) 18:30~20:58
参加者数	59名

No.	項目	内容	市長の発言
11	道路整備計画	蛇の崎橋向こうの碓橋から二葉町を通過し、卸団地につながる都市計画が残っているようだ。やらなければならないのではないのか。	碓大橋から蛇の崎橋の間に橋を作って、そこから卸団地まで鉄道突っ切っの都市計画道路についてだが、なかなか先に進んでいない状況。こういった整備には、多大な資金がかかる。財源の裏付けが必要となってくる。横手市単独の事業ではなく、国・県から交付金等が投入された中で、そういった道路は作られる。市・県・国が一体となって事業が進むので、まだその段階まで来ていない状況。一つ路線を拡幅すると言っても、結構な年限と労力・時間調整が必要となってくるので、まだまだ先の話になる。
12	旧農協ビルの駐車場	農協正面の駐車場に、農協職員が自家用車を停めている。私たちは毎年1,200円納めている、何のために納めているのかわからない。	シャイニーパレスの駐車場を農協職員が使用している事については、駐車場あり方について不勉強でなかなか答えがたい部分がある。使用要項については、存じ上げません。
13	郵便等による不在者投票	郵便投票制度の対象の要介護条件を見直してほしい。(現在は、要介護5の人が対象)また、入場券にバス・タクシー利用割引券が添付されていたが、使われなかった予算は何に使われたのか。	選挙の交通券が使用されなかった予算については、不用額となっている。
14	県立衛生看護学校	4年制の看護学校にして、保健師の資格を取得できるようにしてはどうか。看護学校に通う若い女性が増え、結婚して子どもが増える、また、4年間在学することで、その間の投票率も上がるのではないのか。	衛生看護学院について、4年制になれば生徒数が倍になるし、横手に集う・お住まいになる方も増えると思う。看護師として2年・保健師としてもう2年の4年通って保健師・看護師両方の資格を取得するという熱心な学生さんもいるようで、看護大学であれば尚、集う学生さんも、学校の格付けも上がると思う。引き続き関係者に訴えてまいりたい。
15	大鳥公園のテニスコート	スポ少・横手高校・城南高校、一般のクラブやサークルで横手で一番使用頻度が高い。その管理棟が使われない・水道の水が出ない。水道を出されない理由が、国の指定の水道だから掘り返してできないとの事。南中生がテニスコートを探して八王寺公園に行ったりしている。長沢公園にはスケートボード、3×3バスケットコート2面がある。そこに肉付けして、対面に整備してフルサイズのコートとして使えるように。平成高校・清陵学院もテニスコートの状況はあまり良くないと聞いているので、何とかならないか。それと、赤坂は人が集まれるポテンシャルのある場所と思っている。ふるさと村、赤坂総合公園、周辺にはいろいろな店舗がある。高速道路のインターもある。こういう環境下にある場所というのはそうは無いのではないかと思う。「赤坂という場所を、皆が集まれる場所に」を提案する。	ご存じ通り「大鳥の柵」の跡という事で、あの辺一帯が国指定の遺跡。文化庁から(プールの配管を修理するのに)ストップがかけられて、修理できずあの周辺の考え方がまるっきり変わってしまった。市としてあの場所は、史跡としての在りようを考える場所に変わったと、お知らせしなければならなかった。それだけ、素晴らしいものがあの地面の下に眠っているという事であり、活用在り方を考え直さなければならない。 また、南中学校の生徒さんが使用する施設が足りていない部分についても、新体育館ができた暁には、空いているスペースには南中さん方々も活用できると思う。今まで以上に使い切れる状況になるのかと思う。今ある空間については、工夫次第で何とかなるものに関しては、今後も検討の余地があるのかなと思う。ホールサムインの裏の辺りは、唯一市内で残された遊休区間かなど。法的な縛りもなく何か新しい事業を呼び込まないと手も出せないと思っている。何とか手つかずの貴重な立地空間の活用とか民間業者の力の導入とか、嗅覚を鋭くし、考えられる時が来ればなどと思っている。ただ、今の所具体的に何をやるのか決まっていない。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	Y2ぷらざ オープンスペース
日時	令和5年6月30日(金) 18:30~20:30
参加者数	36名

No.	項目	内容	市長の発言
1	県外へ出た若者	横手に戻らなかった若者が、どの地域に居住先または、就職先を選んでいるのか。	進学は主に、仙台・東京。その先の就職先が、進学した地域の方もいれば、仙台から東京、横手から東京へ就職という方もいる。成人式にアンケート調査し、若い子達の居場所はおおよそ把握できている方である。しかしながら、終の棲家として住宅を所得できるかという点、最近はかなり厳しいと感じる。都会の3分の1程の価格で立派な庭付き車庫付き自家用車持っても暮らしも横手では実現できる。そうした未来が横手にはあるという事をお知らせできればと思っている。
2	八王寺地区	買い物弱者（75歳以上）が多い。バスを利用するにも、運行本数が極端に減少した上に、バス停の場所が移動し、行き帰りがかなり負担になった。循環バスの運行ルートを延伸できないか。	交通弱者については、いろいろと思案・苦心をしながらデマンド交通システムという形で循環バス+タクシーの合わせ技で取り組んでいる。基本的に上位に公共交通のバスの権利があり、そこをなるべく侵さない範囲で循環バスが埋め合わせをするイメージ。現状、八王寺地区は羽後交通のバスが走っているの、循環バスが運行することは極めて困難な地域。ただし、バス停の移動により、不自由な面があるご意見は、羽後交通さんに伝えたい。また、デマンド交通の在り方を考える上で、こうしたご意見がこの地域から提案されていることは、議論の対象としたい。
3	八王寺地区	行政は市民の福祉の向上を目指す福祉施設を総合的に推進していく責務がある。市民の福祉ニーズの把握に努め、公的サービスの充実を図ると共に、地域福祉を推進する団体や関係機関との相互の連携や協力を図り、地域促進に努めていただきたい。「八王寺結いの会」という共助組織がある。補助金をいただきながら、高齢者社会に対応した買い物難民を助ける仕組みづくりはできないものかと考えている。	バス業界・タクシー業界と、全国組織であるため、各業界の法律で縛られた制度に則るかたちで運用されている。交通弱者を応援するために、相当な協議をしている。どういった事ができるのか、折り合いがつけられるのか、など結構な困難があると思うが、今後も我々も探る努力はしてまいりたい。即答出来ない事が私としても歯がゆい。八王寺地区において、どういった現実的な打開策ができるか、今後も勉強させていただく。
4	横手の高校統合	3校（県立増田高校・平成高校・雄物川高校）が統合すると聞いた。分かっている範囲でどこら辺に新しい高校が建つか。	1つが、平成高校に統合する案。1つが増田高校に統合する案。もう1つは、十文字の中心市街地の昔役場あった周辺・十文字第一小学校がある辺り・文化センターがあるあたりが、広大な遊休地という事で、そこに白羽の矢が案として挙がっている。提案として報告を受けている段階。そこに決定したという事ではない。
5	少子化	1人は産めても、2人・3人と産む勇気がないという発言を多く聞く。昔と違って、祖父母を頼って共働きの核家族が多い。自治体がどう関わるか難しいと思うが、3人以上産むためにどんな事が必要か、市長のご意見を伺いたい。	しっかりと職場で、しっかりと所得を得るという事が大事。また、家庭の問題として、父親が協力するかしないかという点もある。共働きがほとんどで、男女平等は掲げられても、母親の負担は大きいと思う。同世代の子どもを抱えている親同士の互恵関係や地域のコミュニケーションで、子育ての心配事や時間的に厳しいことも乗り越えることもできると思う。お互いの子育ての協力関係は非常に大事である。生まれた所から、社会に出て育つまで途切れなく応援されていると感じ取れる状態であってほしい。横手市の財源にも限りがあるので、国と地元と自治体との力のコラボで出生率の向上を目指したい。
6	医療	横手には大きな病院が3医院ある。病床減少の課題があると思うが、今後の病院の在り方について市長のご意見を伺いたい。	各病院が能力のすみ分けをしており、その強みや特色を分けながら、それぞれがしっかり存在するよう努力したい。また医師会・病院等ともコンタクトを密にして、医療サービスを減退しないよう努めてまいりたい。
7	市政懇談会の日程	開催日と曜日の検討をお願いしたい。4児の父だが、この時間は子育て世帯には、参加しづらい部分がある。	毎年場所や時間帯、曜日についてご意見をいただき、その都度変化させながら今に至っている。ご意見を次回の参考にさせていただきます。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	雄物川庁舎 会議室
日時	令和5年7月6日(木) 18:30~20:30
参加者数	33名

No.	項目	内容	市長の発言
1	いじめ問題	孫娘が小学校時代に登校拒否・保健室登校をした。いじめは、校長先生をはじめ、教頭、担任と把握していないことがある。私の場合、家族が学校に事実確認をして原因を追求したので、いい方向に向かった。しかしながら、行き詰ってどうにもならず、登校拒否や引きこもりになっている子どもたちがいると思う。いじめ問題に大人たちが歯止めをかけ、把握していくことが大事。少子高齢化なので、子どもさんを大事にしてもらいたい。	子どものシグナルをしっかりと受信できるよう、教育行政はもちろん、地域も含めて見守っていくべき。今の時代は、少子化により、クラス替えて心機一転ができづらくなっていたり、大人たちにわからないような、陰湿化したいじめも増えたりしている。そういった陰湿な部分をしっかりと捉える部分にも気をくばらないといけない。正義感のあるかつてのガキ大将の存在が、睨みをきかすこともできない社会となってきている。残念なニュースを横手で発生させてはならないので、今後も教育委員会共々、世の中の流れをしっかりと勉強し、取り組んでまいりたい。
2	つきの木館	ゲートボールをしており、冬の間、約5か月つきの木館を利用している。令和7年に解体をする計画を耳にした。近隣住民が集う場所になっているので、つきの木館存続をお願いしたい。	つきの木館に問わず、FM計画（横浜市財産経営推進計画）に基づき、市所有の施設の総量を圧縮する全体的な取り組みを行っている。老朽化し、利用者の安全を保障できない状況になった暁には、廃止を決定せざるを得ない。スポーツ習慣を生活に取り入れていただいていることに感謝。スポーツ施設廃止とともに、その習慣を続行できなくなることは望んでいない。利用できる施設が存在するか否か含めて、持ち帰り課題とさせていただきたい。
3	給食費無償化	第2子の里帰り出産を機に、7月転入予定。第1子が小学校に通っている。男鹿市では、給食費を無償化にすると聞いた。給食費無償化についての横手市の考えはどうか。また、習い事への助成についてはどうか。	給食費については、残念ながら値上げを検討せざるを得ない状況。少子化とはいえ、小中学生数が相当いるので、全額助成となると3億以上かかる。その予算を捻出するためには、何を削るかという議論になり、常に悩んでいる。前に進もうとするとほかの課題が出てくるため、課題として受け止めたい。 習い事については、習いたいものが様々。上位大会に出場した場合、旅費等の補助という支援はあるが、すべての習い事を応援するには、現時点では議論が必要で、難しい。教室の中が荒れることがないよう補助員をつけたり、先生の不足がないような環境を整えたりと学習塾に行かなくても学校の中で完結できるような教育方針でやっている。
4	雇用者賃金	求人を見ると、時給が低い。本日の話は、発展的でわくわくし、すごく夢のあるものだった。そういった横手市をいっぱい発信してもらえるとありがたい。そして、時給があがるような働きかけもしていただきたい。	経済原理として経済力を強くし、企業が獲得する収益を増大させ、人材獲得に高い給料を提案できるような企業に成長していれば、低賃金の状況にはならないと思う。給料が高すぎて、雇う側が潰れてしまうのは、元も子もない。横手の経済力に比例していると思うので、今後も高い給料を払えるような企業を誘致してまいりたい。
5	敬老会	コロナで休んでいるのか、やめたのか。高齢者の生きがいと捉え、ぜひ集まる場を考えていただきたい。	敬老会については、老人クラブ等の幹部の方々と相談させていただき、廃止とした。小さい枠組みで、開催することに応援していくほうがいいのではないかという意見を多くいただいた。実は参加対象者の20%も参加いただけていない地域もある。敬老会のあり方を見直し、新しい形の応援を示せたらと考えている。決定打はないので、もう一度練りたい。
6	除雪	お金を出して済むということばかりでなく、地域のいろいろな感情が入るので、何かいい方法を考えていただきたい。	誰しもの悩みであり、無視できない課題。高齢者世帯等の雪下ろし助成、雪対策のための住宅改修補助など、豪雪の度に、雪に対する乗り越え方を考えていきている。ただ、応援するだけでなく、地域ぐるみで乗り越えるための応援も考えてまいりたい。豪雪対応のまちづくり、少しずつ強靱化していくよう、しっかりと目を背けずに取り組んでまいりたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会 場	大森地区交流センター 2F 視聴覚室
日 時	令和5年7月10日(月) 18:30~20:20
参加者数	22名

No.	項目	内容	市長の発言
1	移住者	誘致した企業の従業員、家族などを含めて何世帯くらいいるか。	秋田県で移住認定されている世帯や進出した企業に転勤してきた、もしくは中途採用した人がいることはわかっているが、具体的な人数は把握していない。
2	誘致企業	東成瀬村の例、村と企業が連携して本社から移住してきた従業員を村が子育て支援している。横手市も誘致企業と連携し、円滑なコミュニケーションを図ることで、「横手市はよかったな」というイメージが広がると、人口増にもつながるのではないかと。	第二工業団地に進出した高英は、東京都江東区にあった本社を横手市に移転。よそから人がしっかりとくるように今後も応援してまいりたい。企業誘致などで確実に人が外から入ってきてはいるが、それ以上に流出がある。流出の数に負けないように、今後も取り組んでまいりたい。
3	保育所関係	大森病院内にある保育所『森のこハウス』の利用者数や職員数、運営状況を教えていただきたい。	大森病院周辺エリアで働く方のお子さんを優先的に預かり、心配なく働ける環境を整え、女医・看護師など人材を獲得する趣旨の院内保育所。4名の職員で、2名の利用者。働き手を獲得するための大森病院の強みであり、このまま維持していきたい。
4	保育所関係	大森保育園と川西保育園の統廃合をどのように考えているか。	大森保育園と川西保育園については、運営法人が同じ。統合するのか、2園のままにするのかはサービス提供側のコンセプトや考え方や、利用者の要請などがある。どの方法が正しいかは決めかねる。判断は運営している事業者が方針を示し、その方針に向かうためのサポートや助言はできると思う。市が民間事業者に指示命令の方法はとっていない。民間事業者の方針を尊重し、問題意識を共有しながら、我々は伴走して応援する。
5	さくら荘	日本各地で洪水、自然災害が起きており、避難場所について困っている。高台にさくら荘があるので、市直営でやっていたら、食事や温泉の提供ができるのではないかと。	直営というよりは、市は運営にはかかわらないが残していく方針。なんとか民間の力で運営していただきたい方針である。指定管理料等を検討していく。避難所についても、直営であろうが、民営であろうが、引き受けられる能力の範囲でお願いしていく。 公共用地に囲まれたエリアであるので、洪水のみならず、有事も平時も活用できるよりどころになればと考えている。
6	市営住宅	市営住宅の入居率を教えてください。西野住宅の空き状況に比べ、入居募集戸数が少ない。空きの多い住宅の扱いはどのようにするか。	・全体の入居率は、65.3%。約35%は空き状況ということになる。場所によって、人気不人気がある。入居希望者はいても、待機している、入居したい地域の住宅が空いていないと応募しない現状。また老朽化に伴い、縮小・解体を判断している場所もある。全体の市営住宅を圧縮する方向にある。万遍なく埋まらないのが現状。
7	市営住宅	共同清掃など住民に任せられている住宅もあるが、横手市営住宅サービスセンターへの委託状況はどのようになっているか。	徐々に全体を統一する方向性ではあると思う。住民組織にまかせているところもあれば、市が関わっているところもある。例えば雪下ろしであれば、住民で行っているところもあれば、業者に頼んでいるところもある。西野住宅につきましては、不明。後ほど回答する。
8	リモートワーク	各地域にある図書館の在り方は。公共的に有料無料問わず、リモートワークできる施設はあるのか。例えば、さくら荘の一室をリモートワークができる環境にして、滞在できるようにするなど。	民間であれば、MicrosoftBase「かま蔵」がある。横手市が提供している、企業創業を応援する共同オフィスであるBizサポートよこてを整えている。また、セキュリティの保障はできませんが、Ao-naのカフェスペースにもWi-Fi環境を整える予定。コストの許す範囲で、人の集まりやすい場所にそういったしつらえを整えていきたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	金沢孔城館 洋室I
日時	令和5年7月11日(火) 18:30~20:10
参加者数	32名

No.	項目	内容	市長の発言
1	企業誘致	岩手に大きな会社が進出してきているのに、なぜ、横手にはそのような企業が来ないのか。それを市長は、どういう形で企業を呼び込むのか。	少しずつ企業に来ていただいておりますが、まだまだ道半ばという風に私はとらえている。そもそも、北上と横手で、整えられたインフラが違っていた。市長就任以来、かなりの労力と時間を企業誘致はさせていただいたつもりだし、秋田道の四車線化を弾みにし、東北中央自動車道もいずれは一本に繋がる事も今後の企業誘致の弾みにしたいと思っている。これからも更に、企業が安心して横手進出に至る場所なのだといに宣伝し、諦めずに誘致を展開してまいりたい。
2	道路整備	大きな道路は良く整備されているが、田舎の片隅の市町村の境目辺り道路は、非常に悪く、傷んでいる。とても小さい子が歩けるような道路ではない。整備の計画を教えてください。また、工業団地ができてきている地域と何も無い地域との差が出てきているのでは。どういう形で人を呼んで、地域人口を増やしていく考えがあるのか教えてください。	大きい幹線道路については、長期的な展望に立ちながら、計画的に優先順位をつけて整備計画をしつらえているが、小さい道路も生活の大事な道であるので、点検をして状態の把握をしているつもりだ。横手市の道路管轄は1千キロ以上あるので、そこより悪い所があると、優先的に悪いところを整備することになる。建設部、地域局も把握はしている。危険の解消という部分での優先度があるので、客観性を持たせながら、努めてまいりたい。 財政の確保も大事であり、細やかな部分（小さい道路）については、特に金沢出身の議員さんから毎回何とかしてほしいと言われているので、忘れずに取り組んでまいりたい。
3	金沢地区	ここが金沢のふるさとだと考えた時に、遠くに行って戻ってきた時に、心のふるさとと言えば「平安の風わたる公園の風景」だとか「八幡宮の御神馬像」とか、そういう形の残る物を残していかなければならないと思っている。	金沢センター長の御労苦には、感謝申し上げます。この金沢の価値は、もっともっと磨いていきたい。横手周辺の宝として育て、発信していかないといけない大事なコンテンツだと思っている。いよいよ推定金沢の柵の「推定」の文字が取れる前夜まで来ているのではないかと。学術的に認められれば、全国的に金沢の歴史的な位置づけ・ポジションは、より一層はくがつく。我々も協力して素材の磨き上げに尽くしてまいりたい。
4	道路整備	バイパス計画の説明会があったが、当地区が裏通りとなって素通りされないう、特に金沢資料館には来訪者が少なくないため、しっかり案内表示を行っていただきたい。	国道13号の4車線化・バイパス計画は、先のアンケート結果やこれまで強く要望してきた経緯から、ぜひともご理解いただきたい。 また、日立Astemo・日発精密工業等をはじめとする工業団地への通勤時の渋滞緩和にも寄与するものと思われる。整備にあたっては、皆さまからのご意見を頂戴しながら課題を解決すべく国土交通省へ要望していく。

令和5年度市政懇談会 記録

会 場	浅舞地区交流センター 多目的ホール
日 時	令和5年7月12日(水) 18:30~20:17
参加者数	36名

No.	項目	内容	市長の発言
1	横手の知名度	東北で秋田県が一番目立たない印象がある。宣伝にお金をかける方法ではなく、外部（県外）・違う視点からの意見を聞いて、実行した方が良いのではないかと。	これまで宣伝費用をかけずに努力してきた。小さなエネルギーで最大の効果を狙い取り組んできたが、県外の方へのPRが足りていないというご意見は、率直に受け止め、よそのご意見を頂きながら新しい取り組みに反映させてまいりたい。
2	住みよいまち	地元で暮らしている人がいかに暮らしやすいかに視点を置いてもらいたい。例えば、道路上の白線・横断歩道・停止線のライン引きは、どこでやっているのか知らないが、消えている。こういうところは春一番にやってもらわないと、暮らすのが大変だ。下醍醐の部落内では、部落内を通過する車のスピードが速すぎて、横断するにも危なく、部落の入口に40キロ制限のマークをつけてもらえないか。どこに頼めばいいのか。	横断歩道や停止線については、公安委員会の管轄となっている。線が消えているからと言って、勝手に善意で塗ったら咎められる。また、横手は雪国なので、除雪で白線が削れるスピード（損耗度）が速い。白線を引く予算は、国から多めにきている訳ではなく、国等に予算付けを早く認めてもらうよう、訴えていく。スピード表示も同じく公安委員会。道交法で決められている速度を、それと違う速度にすることは、果たしてどうかということもある、我々は交通安全行政をしっかり進めていく責務が当然であるので、啓蒙・啓発してまいりたい。
3	白線引き・道路補修	公安委員会に申し込んでいないから、白線が消えたままなのではないのか。秋に、横断歩道を一気に塗って、直ぐに雪が降って春になれば消えるのに、そんな無駄な事をどうして監視できないのか。春に学校・病院の横断歩道をやらなければならないのに無視している。市民が安全に対して申し立てる事を、公安委員会に強く言ってもらいたい。	これまでも幾度となく公安委員会に申し上げているが、なかなか嬉々として改善されていないので、粘り強く言うしかない。公安委員会の認識を改めてもらい、雪国の白線の予算を多めに付けて欲しいと訴えているが、改善されていない事は私の力不足であり、私の訴えが響いていないのかもしれない。しかしながら、思いは幾度となく伝えている。お願いに行く回数は、全県で一番多く行っている首長だと思うが、それでも何ともならない。大変忸怩たる思いしているので、今後も粘り強く訴えてまいりたい。
4	道路整備	旧横手市の道路は（整備されて）良くて、他の郡部の道路はでこぼこして、自転車で通っても歩けない状況だ。	旧横手市内ばかり良いのではなく、老朽度合や交通量など、客観的な数値の点数付けを場所ごとにやっている。周辺に重要な施設があるか、様々な点数付けの報告のもと、優先順位をつけ、道路補修の順番を決めている。どうしても、交通量が多い所が優先され、補修している。市の管轄分で、1千キロ以上あるので、来年すぐにはやれないが、年次計画を立ててやらざるを得ない。少しでも、道路が安全な状況を保てるように予算の確保に努めてまいりたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会 場	山内地区交流センター ホール
日 時	令和5年7月31日(月) 18:30~20:34
参加者数	37名

No.	項目	内容	市長の発言
1	駅前再開発	第三者委員会は、どこで立ちあがるのか。再開発組合なのか市なのか。8/9に調査結果の報告がされると新聞で見たが、市民にも報告がされるのか。	再開発組合が、不具合箇所の是正工事について技術監修を行う「一般財団法人 日本建築総合試験所」と建物施工の監査を担当する「株式会社ERIソリューション」に検証してもらい、さらに地元の建築士さんに公正に見てもらおう事になっている。時間が掛かるのはやむを得ない。その判断を基に今後、組合が現実的なアプローチをしていく。
2	鶴ヶ池荘	昨年からいっこうに話が進んだところが見えないが、どんな議論がされてきたのか、今後対策がたてていくのか。 (再質問) 3~4年経過しているが、いつも回答が同じだ。どこまで検討しているのか先が見えない。	・横手市として温泉事業全体として、横手の温泉をどう捉えるか、今考えているところだ。その中には、鶴ヶ池・さくら荘・ゆっぷるについては、行政も関わる形（指定管理等）で存続を検討。それ以外の施設については、公募して名乗りを上げる企業・団体さんがいれば、運営を委ねるが、名乗りが無ければ廃止をさせていただく方向である。議会にはかり、横手市全体のコンセンサスが決定してからとなるので、建物に何かを施すという段階ではないことを理解いただきたい。 ・市として温泉施設の再編・縮減という部分は、以前より方針を掲げていた。今年度中には、全体の在り様が鮮明に打ち出せるようにしたいし、年度内中に説明を尽くしご理解を頂けるように努力して尽くしていく。最終的には議会の理解が必要である。
3	マイナンバーカード	市内の個人病院を含むすべての病院が、マイナンバーカードを使用できるようになっているか。	一医院だけ、制度に反対していると聞いている。概ねカードは使用できるはずである。
4	インボイス制度	10月から制度が開始されるが、個人経営者はこれを大変心配している。山内地域は職人さんが多い地域なので、心配されているので、市でどこまで関わりがあるかわからないが、どんな具合で進んでいるか。	これは、事業者全員に関わるもので、今まで納めていたところ（事業者・経営者）は、そのままだが、新たに税が発生する方へのご理解に、会議所・商工会さん方のお力を借りながら、説明を尽くしている。制度としてはじまる義務であるため、理解しがたいものも理解していただいて、発生する税についてはきっちり納めていただかないとならないし、何とか、ご理解いただきたい。
5	敬老会	昨年敬老会がなくなっているが、この山内地域は高齢者が大変多い。市の助成をもう少し何とか、増額できないか。	これまでの開催実績を見ると、横手市全体として2割位の参加者で、大体が欠席をされている状況だ。大所帯での開催よりも、小規模（町内ごととか）での開催の方が良いというご意見が敬老会の幹部の方々からご意見が出ているので、小さい括りの中で開催しようというところに市が応援するという発想で構えている。 金額については、即答できないがご意見があったと真摯に受け止めて、庁内で練りたい。

令和5年度市政懇談会 記録

会場	山内地区交流センター ホール
日時	令和5年7月31日(月) 18:30~20:34
参加者数	37名

No.	項目	内容	市長の発言
6	大松川地区の避難対応	<p>先日の大雨があった際、高齢者は地域局へ避難するようにと放送されたが、一人暮らしの高齢者が地域局まで避難してこられるのか。(地域局まで3.5Kmくらいあるのに)その対応ができていないのでは。近くの大松川のコミセンを公民館扱いにして、避難所指定にできないか検討してほしい。</p> <p>(再質問) 市長は大松川(地区)の避難場所をご存じか。旧松川小のグラウンドで、屋根もない。避難場所としては、屋根のある場所に避難をさせて欲しいと思うがいかがか。</p>	<p>・避難区域の方がすべて避難所に避難すればいいという形ではなく、家屋が浸水しないような場所・土砂崩れ等が発生しない場所にお住まいの方については、自宅避難も選択肢のひとつ。安全な場所にいる方は、避難所に避難しなくても良い場合もある。浸水が想定される場所でも、2階のあるお宅では、垂直避難という形で2階に移動する事も避難であるので、必ずしも避難区域の全員が避難所に殺到するというイメージではない。暗く、どしゃ降りの場合、避難行動そのものが安全でない場面・場所があったりするので、おかれている状況によって適正な行動が求められる。コミセンの扱いについては、後でお知らせさせていただくので、ご意見として頂戴する。</p> <p>・旧小学校跡地である事は知っている。交通弱者の方が避難するとなれば、非現実的だと感じる。問題提起として受け止める。</p>
7	農産品目への補助金	<p>米と蕎麦を植えているが、蕎麦は今年も雨で植えられず、年収は赤字だ。他の作物にも(いぶりがっこ用の大根でも)補助金を出して(増やして)もらえないか。</p>	<p>この中山間地で農業の担い手の皆様は貴重であり、敬意を表します。例えば、大根への補助についても、補助金が出るまでに至っていないので、大変申し訳ない。今、重点振興作物の中で、県内では間違いなく横手市が一番様々な品目に対する応援を資金的にしているし、機械設備の導入とか県内では横手市の農業支援が一番と言えている。ただ、細やかな部分で言うと対応しきれていない現状である。どういう支援の方法も含め、今後工夫してまいりたい。農業関係の諸団体と協議して、何でもかんでも補助金を付けるわけにいかないなので、市として、戦略として応援する品目を決めて、各団体と図って重点作物を作って応援していく。</p>
8	山内の芋の子PR	<p>TVで他県の芋の子について見るが、山内の芋の子についてもっとPRしても良いのでは。ふるさと村で焼きそばのイベントがあるように、東北六県の芋の子まつりのような大会イベントはできないか。</p>	<p>山内芋の子を生産する組合員の数・作付面積・販売売上も年々落ちてきているのが、非常に残念に思っている。個人的にも私は山内の芋の子ファンである。山内の土がこのおいしい芋の子を生み出している部分もあるので、どこでも同じ生産方法でもこの品質が出せるものではない。山内が生み出す地場も宝だと受け止めている。芋の子まつりも復活して盛況だし、それ以上にPRする仕方に何かあるか直ぐに思い浮かばないが、新たな生産者の担い手の発掘や支援方法・宣伝方法も……。数に限りがあるので、高い付加価値化・ブランディングをどうすればと考えている。何とかこの大事な産品をメディアを介してもっとPRできないか考えていきたい。</p>

令和5年度市政懇談会 記録

会場	十文字地区交流センター 交流ホール
日時	令和5年8月2日(水) 18:30~20:13
参加者数	31名

No.	項目	内容	市長の発言
1	よこて市商工会 (十文字)	十文字の商工会が三重に移転するのか。十文字の道路は悪い、自転車で7回も転んだ。図書館も体育館も不要。十文字のことをしっかりやってもらいたい。 (再質問) 商工会へ行くのに、バスは出るのか。	・十文字という場所は、商業売上が約200億円以上ある。しかしながら、十文字の方だけの消費をもってして売上が上がる訳ではない。周辺地域の方が訪れ、お金を使うことで、その売上でかなりの十文字経済が成り立っている。ついては、十文字にだけ投資すれば十文字が潤うかと言えばそういう経済ではない。 ・バスは出ません。検討の結果で決定していること。
2	十文字地域	十文字地域のこと、地元のことを考えてほしい。	十文字に何かを建てると、十文字にプラスになるように見えるかもしれないが、十文字の地理的性格は、商業地でもあり、交通の要所でもある。 十文字地域だけに何らかのハード的投資をすれば、十文字が発展するというのは、安易な発想だと思う。 十文字でお金を使ってくれる人が住んでいる場所も発展し、経済もちゃんとしていないと。 十文字以外のお客様が、十文字でかなりお金を落としてくれているので、そういう方々の暮らしが良くならなないと、十文字は発展しない。残念ながら、十文字一人勝ちで周りの周辺地域はぺんぺん草が生えているようでは、十文字は発展しません。周辺地域も取りこぼさない努力もしつつ、十文字に吸引力を設けていくというのは、これまで商業地・交通の要所で暮らしてきた十文字の戦略だと思う。 だからと言って、足りていない事をやっているかいうと、まだ及ばない部分があり、忸怩たる思いはしている。 十文字という場所の性格というのは、十文字だけ良ければという考えでは、潤わない場所だと思っている。
3	入浴券	入浴券が無くなった。そのあたりを考えていただきたい。	温泉の利用券については、実際配布した枚数に対して、利用している数は全体の10%にも満たない。温泉を利用しない市民、利用している市民がいる。全く利用しない市民の税金も使われて温泉が運営されている。 利用している方も税を納めているが、利用されている方よりも、利用していない多くの市民の方の税金も、温泉には使われている。 もしかすると、温泉を利用しない市民の方で、自分の血税が利用しない温泉に税金が使われている事に憤りを感じる市民の方もいらっしゃると思う。横手市でやっている全てのサービスを市民全員がいただいている訳ではなく、そのサービスの対象となる層に対して、その税がサービスとして提供されている。サービス対象外の人にしてみれば、もしかしたら「あんな物に俺の、私の税金を使って・・・。」という方が、どの政策に対してもいらっしゃると思う。そういったご意見はごもっともである。